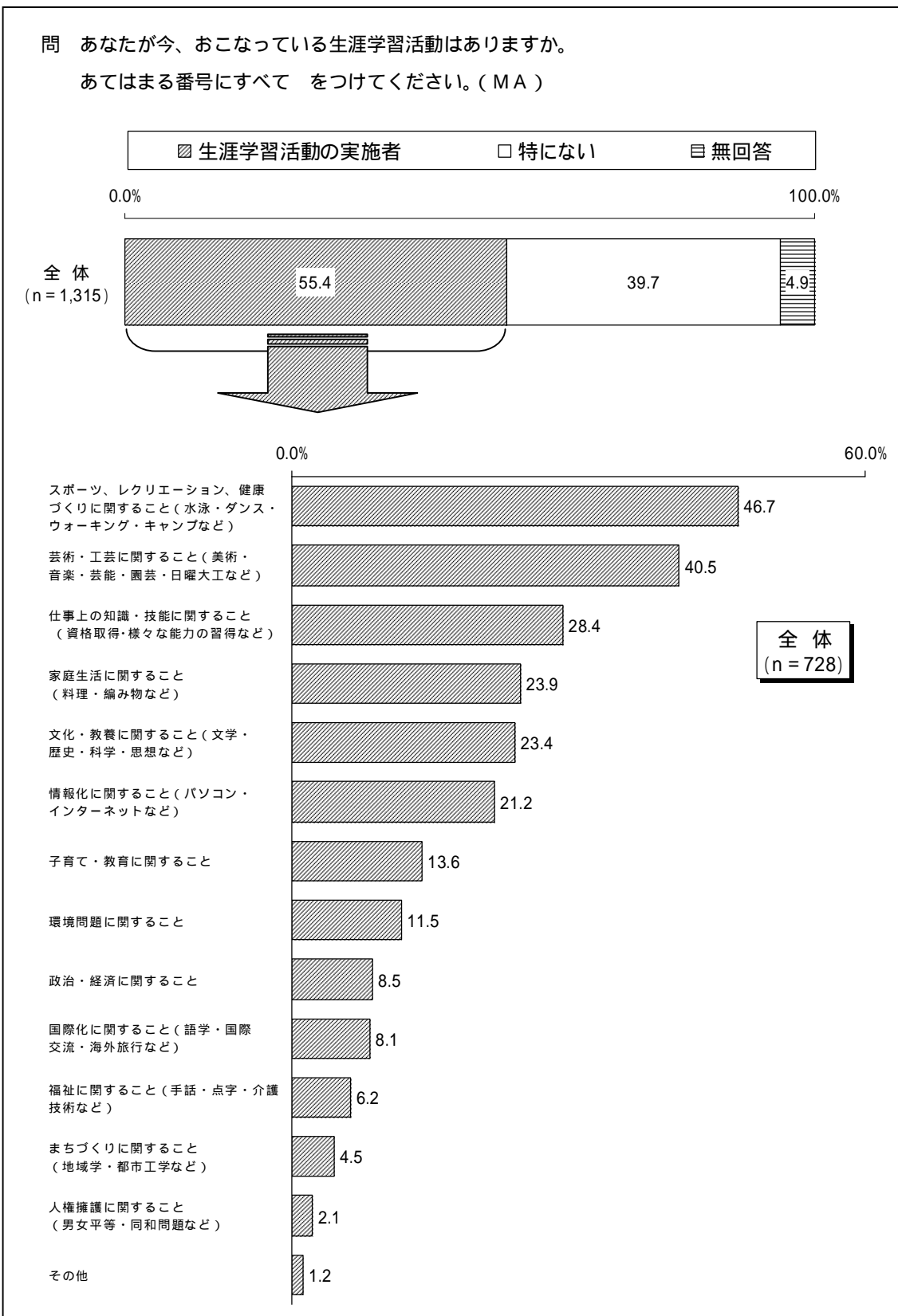


調 查 結 果

1 生涯学習活動への関わり

(1) 生涯学習活動の現状

生涯学習活動の実施状況



半数強が生涯学習活動を実施している。

【全体結果の要約】

現在、生涯学習活動おこなっている人は55%である。

おこなっている人の活動内容として最も多いのは、「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」で、おこなっている人の半数弱（47%）が回答した（対象者全体では26%と約4人に1人）。「芸術・工芸に関すること（美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など）」がおこなっている人の41%でこれに次ぐ。

以下、おこなっている人ベースの回答率2割台で、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」（28%）、「家庭生活に関すること（料理・編み物など）」（24%）、「文化・教養に関すること（文学・歴史・科学・思想など）」（23%）、「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」（21%）が続く。

一方で、「子育て・教育に関すること」（14%）や「環境問題に関すること」（12%）は回答率1割台にとどまっている。更に、「政治・経済に関すること」（9%）、「国際化に関すること（語学・国際交流・海外旅行など）」（8%）、「福祉に関すること（手話・点字・介護技術など）」（6%）、「まちづくりに関すること（地域学・都市工学など）」（5%）、「人権擁護に関すること（男女平等・同和問題など）」（2%）などは実施者が少なく、回答率は1割に満たない。

【結果考察】

新潟市民の生涯学習活動の実施率は55%となっており、新潟県や全国の実施率と比べて、高い数値を示している。平成20年9月の新潟県の『県民アンケート調査報告書「生涯学習に関する意識・実態と今後の意向について」』によると、この1年間に何らかの「生涯学習」を「した」人は45%、「しなかった」人は55%である。平成20年5月に内閣府が実施した全国調査『生涯学習に関する世論調査』によると、生涯学習を「（この1年くらい）していない」人は、51%である。新潟県や全国の調査では、生涯学習をおこなっている人は半数に満たないが、新潟市においては半数を超えている。

全国調査では、「健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、ジョギング、水泳など）」、「趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）」の順で実施者が多く、新潟市も活動内容については全国と同様の傾向にあることがわかる。

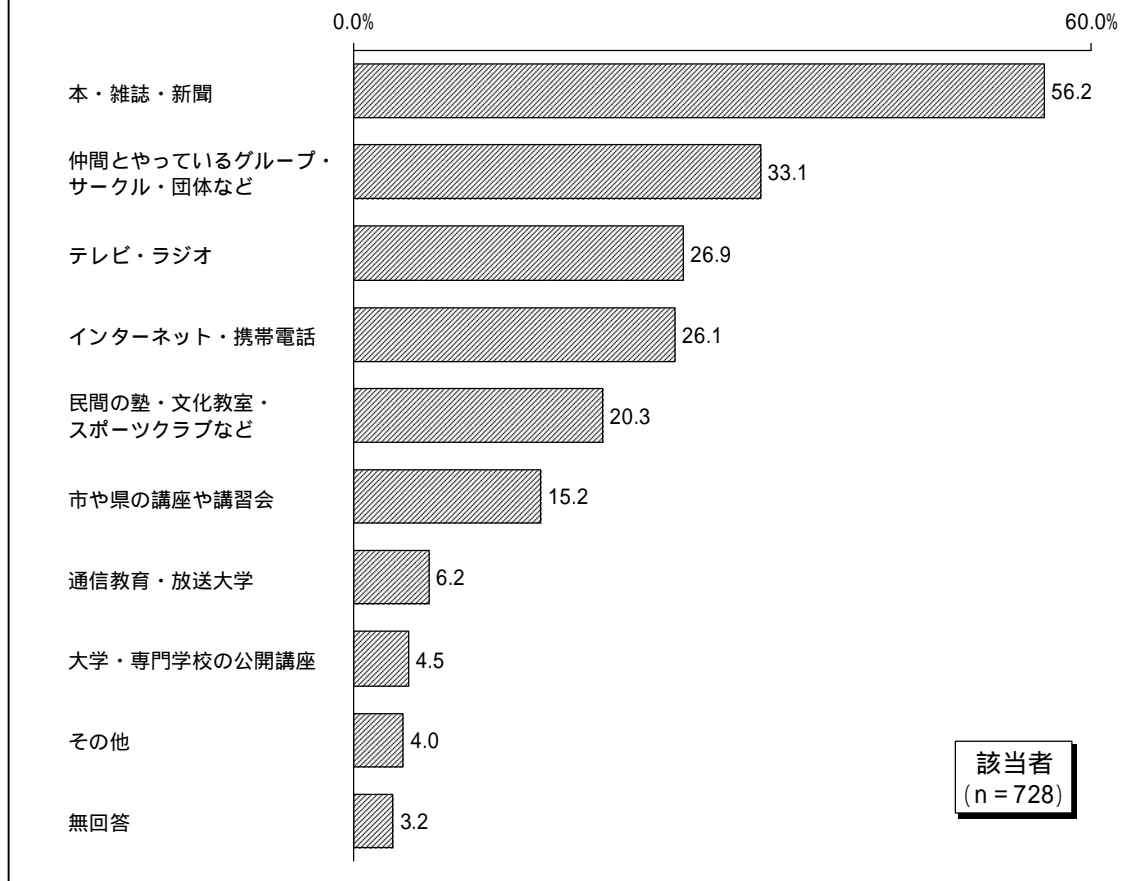
また、年代別にみても、若年層（20歳代・30歳代）では、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」の実施者が最も多い。40歳代以上の中高年齢層で最も多いのは「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」となっており、年代による活動内容の違いがみられた。

生涯学習活動の方法

(『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、その生涯学習活動をどのような方法でおこなっていますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



約 3 分の 1 は団体活動の実施者である。

【全体結果の要約】

「本・雑誌・新聞」によって実施している人が最も多い。「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を回答した人も約 3 人に 1 人いる。

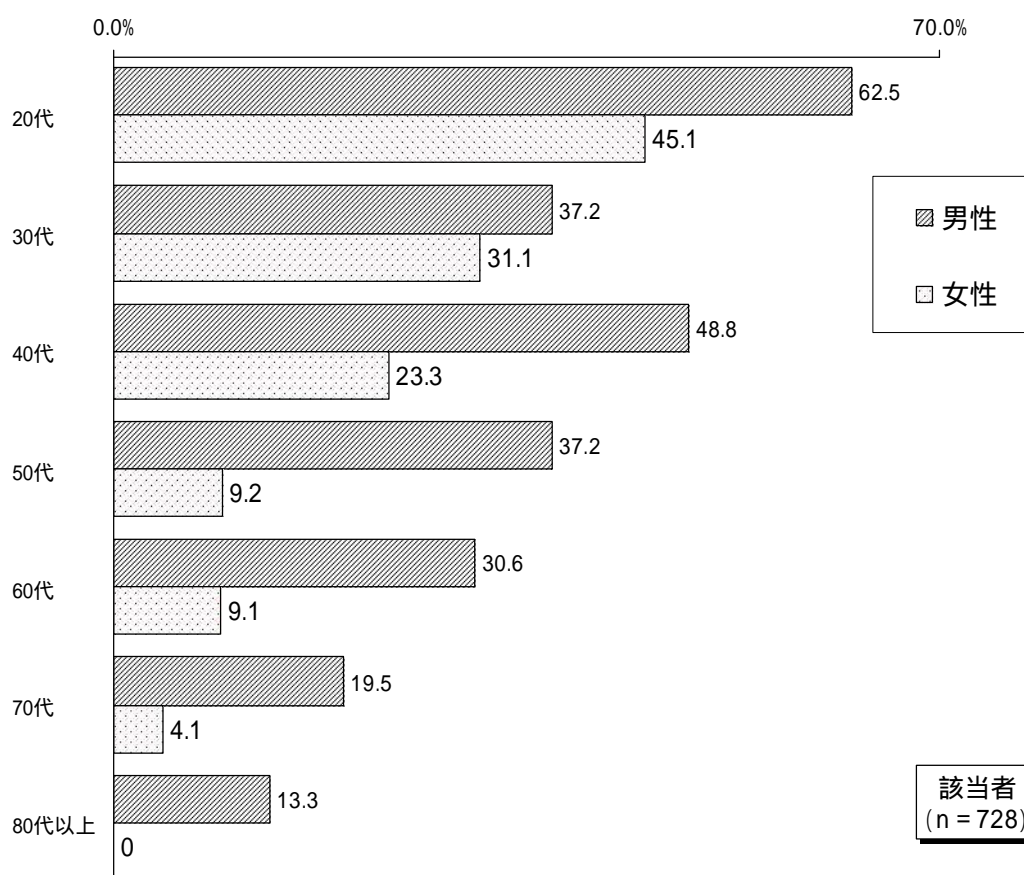
以下、「テレビ・ラジオ」、「インターネット・携帯電話」、「民間の塾・文化教室・スポーツクラブなど」の順で続くが、これらに比べると「市や県の講座や講習会」、「通信教育・放送大学」、「大学・専門学校の公開講座」といった講座や講習会関係の利用者は少ない。

【結果考察】(図1 - 1 参照)

すべての年代において、「本・雑誌・新聞」が主要な生涯学習活動の実施方法となっている。若年層(20歳代・30歳代)では「インターネット・携帯電話」による実施が、40歳代以上の中高年層では「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」による実施が、「本・雑誌・新聞」に次いで多くなっている。

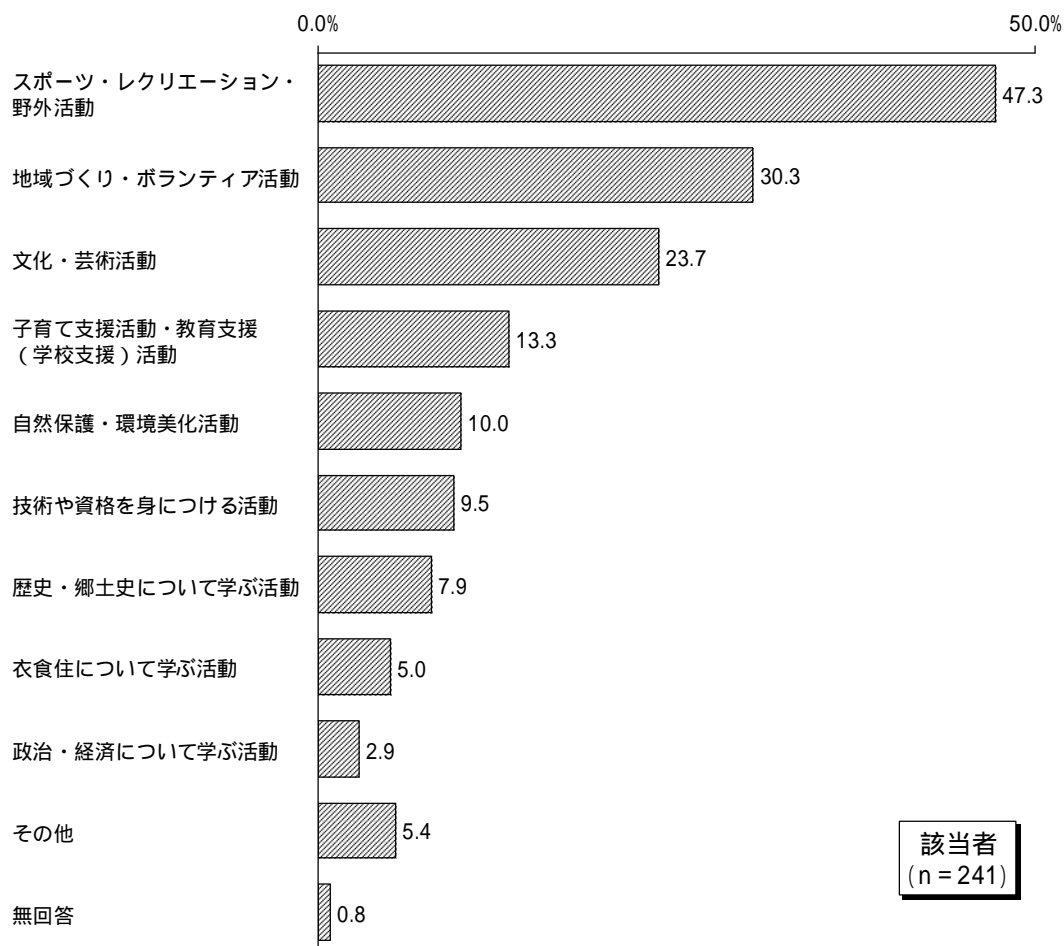
「インターネット・携帯電話」については、20歳代全体で51%と高く、年代による差が特に顕著である。また、女性の割合が男性より低く、男女差も大きい。(図1 - 1)

<図1 - 1> インターネット・携帯電話による実施率



グループ・サークル・団体などの活動内容

活動を「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」を選んだ人にお聞きします。
 (付問) そのグループ等は、どのような活動をしていますか。
 あてはまる番号にすべて をつけてください。(MA)



主要な活動内容は「スポーツ・レクリエーション・野外活動」である。

前問で「仲間とやっているグループ・サークル・団体など」と回答した人(241人)に、参加団体などの活動内容について聞いた。

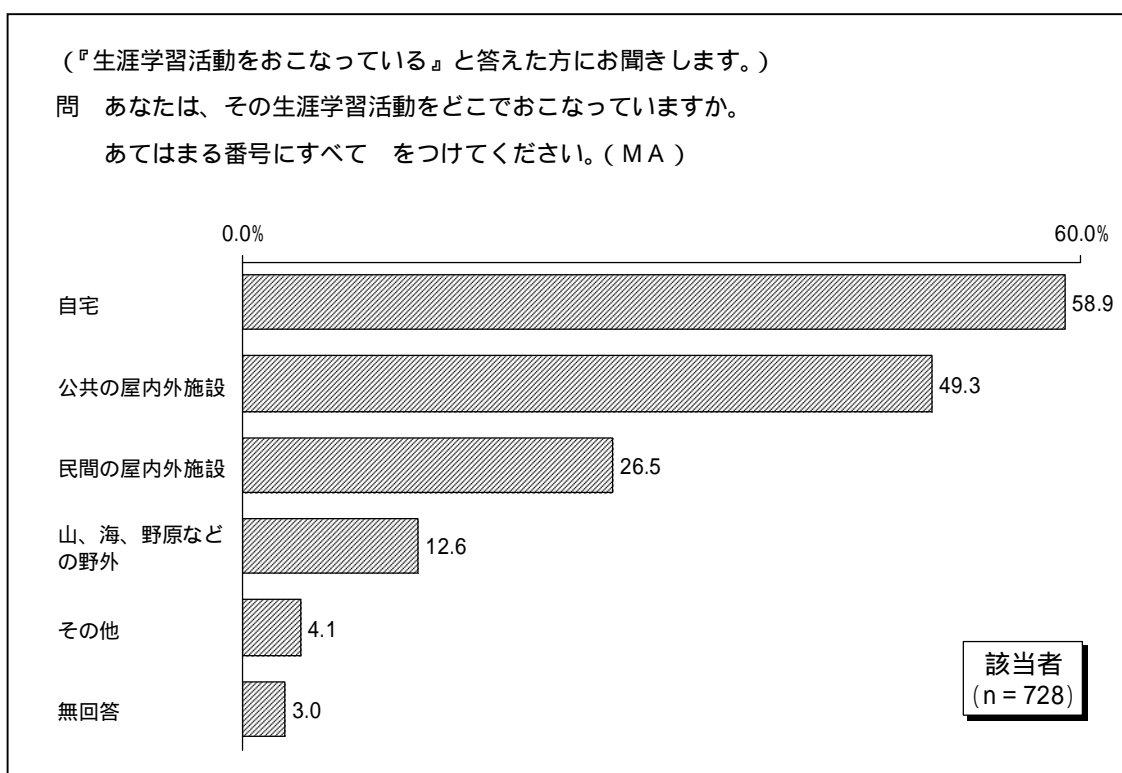
【全体結果の要約】

「スポーツ・レクリエーション・野外活動」が最も多く、半数弱が回答した。以下、「地域づくり・ボランティア活動」、「文化・芸術活動」の順で続く。

【結果考察】

地区別にみると、仲間とやっているグループ・サークル・団体などの活動内容に違いがみられる。それぞれの項目で最も高い割合の地区は、以下のとおりである。「スポーツ・レクリエーション・野外活動」は北区(59%)、「地域づくり・ボランティア活動」は秋葉区(54%)、「文化・芸術活動」は中央区(29%)、「子育て支援活動・教育支援(学校支援)活動」は東区(28%)、「自然保護・環境美化活動」は秋葉区(27%)、「技術や資格を身につける活動」は西区(24%)、「歴史・郷土史について学ぶ活動」は江南区(13%)、「衣食住について学ぶ活動」は南区(13%)、「政治・経済について学ぶ活動」は東区(7%)となっている。参加団体などの活動内容に、それぞれの地区の特徴があらわれている。

生涯学習活動の活動場所



「自宅」活動者が約6割いるが、活動場所は多岐にわたる。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、その活動場所について聞いた。

【全体結果の要約】

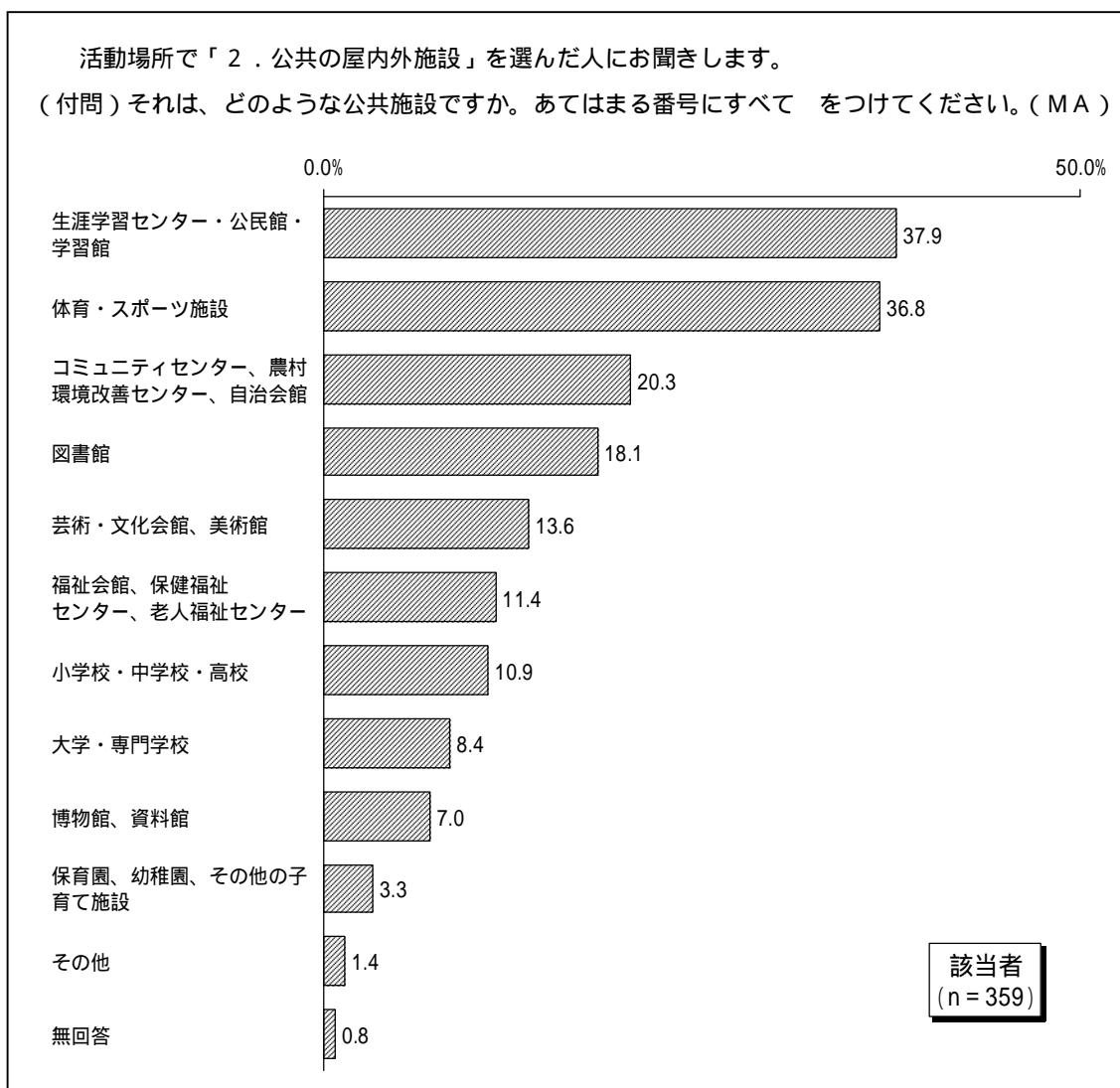
「自宅」で生涯学習活動をおこなっているとの回答が最も多い。

「公共の屋内外施設」を利用し活動している人も半数程度いる。その他、「民間の屋内外施設」も4人に1人程度、「山、海、野原などの野外」も1割強あり、活動場所は多岐にわたっている。

【結果考察】

「自宅」での活動者は、20歳代、30歳代がそれぞれ72%、80%となっており、若年層が特に多い。50歳代以上の中高年層では、5割以上の方が「公共の屋内外施設」で活動しており、公共施設の利用率が高い。

利用している公共施設の種類



「生涯学習センター・公民館・学習館」「体育・スポーツ施設」の利用者が多い。

前問で「公共の屋内外施設」と回答した人(359人)に、施設の種類について聞いた。

【全体結果の要約】

「生涯学習センター・公民館・学習館」と「体育・スポーツ施設」の回答が3割を超えており、これら二種の公共施設の利用者が多い。

【結果考察】

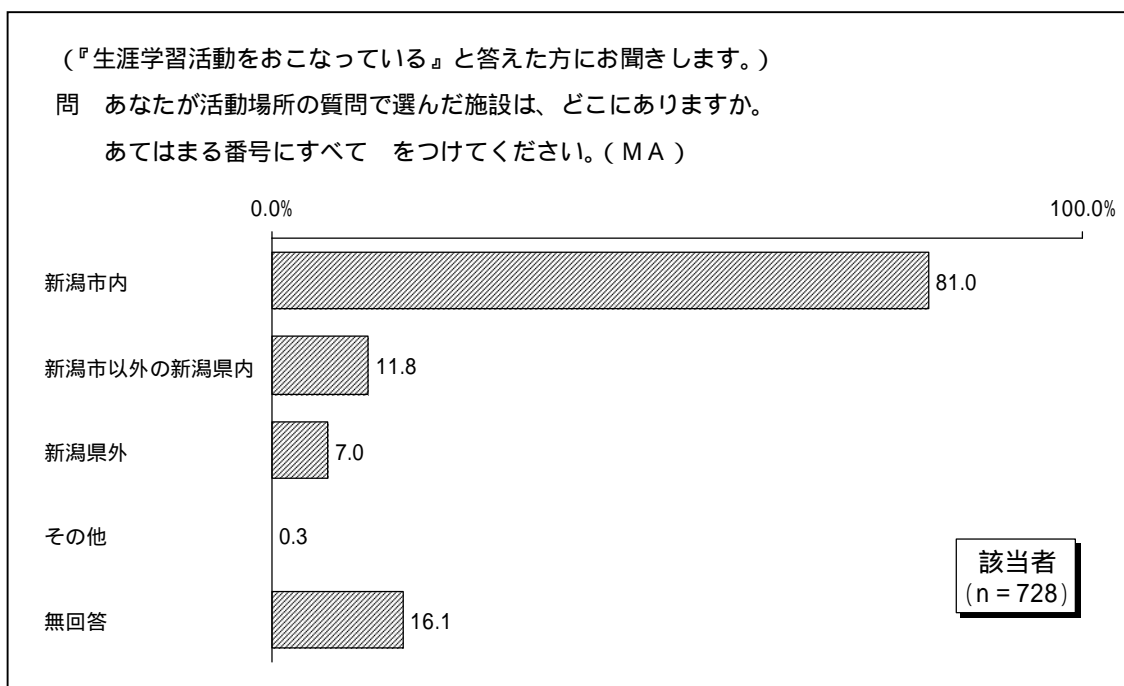
地区別による公共施設の利用の違いがみられる。それぞれの項目で最も高い割合の地区は、以下のとおりである。「生涯学習センター・公民館・学習館」は、秋葉区の56%である。

「体育・スポーツ施設」は、北区の50%である。「コミュニティセンター、農村環境改善センター、自治会館」は、江南区、南区の33%である。「図書館」は、中央区の22%である。「芸術・文化会館、美術館」は、西蒲区が19%である。「福社会館、保健福祉センター、老人福祉センター」は、秋葉区の22%である。「小学校・中学校・高校」は、西蒲区の19%である。

「大学・専門学校」は、西区の15%である。「博物館、資料館」は、東区の10%である。「保育園、幼稚園、その他の子育て施設」は、秋葉区の9%である。

「グループ・サークル・団体などの活動内容」の結果と比べてみると、「スポーツ・レクリエーション・野外活動」が多い北区では「体育・スポーツ施設」の利用率が高く、「地域づくり・ボランティア活動」や「自然保護・環境美化活動」が多い秋葉区では「生涯学習センター・公民館・学習館」の利用率が高い。「文化・芸術活動」が多い中央区では「図書館」の利用率が、「技術や資格を身につける活動」が多い西区では「大学・専門学校」の利用率が、それぞれ他の地区と比べて高くなっている。「グループ・サークル・団体などの活動内容」と「利用している公共施設の種類」との間には、関連があることがわかる。

活動場所の所在地



約 8 割の人は、自宅を含めた市内で生涯学習をおこなっている。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、活動している場所や施設などの所在地について聞いた。

【全体結果の要約】

多数は「新潟市内」を活動拠点としている。

一方で、「新潟市以外の新潟県内」や「新潟県外」に活動場所がある人も 1 割前後いる。

【結果考察】

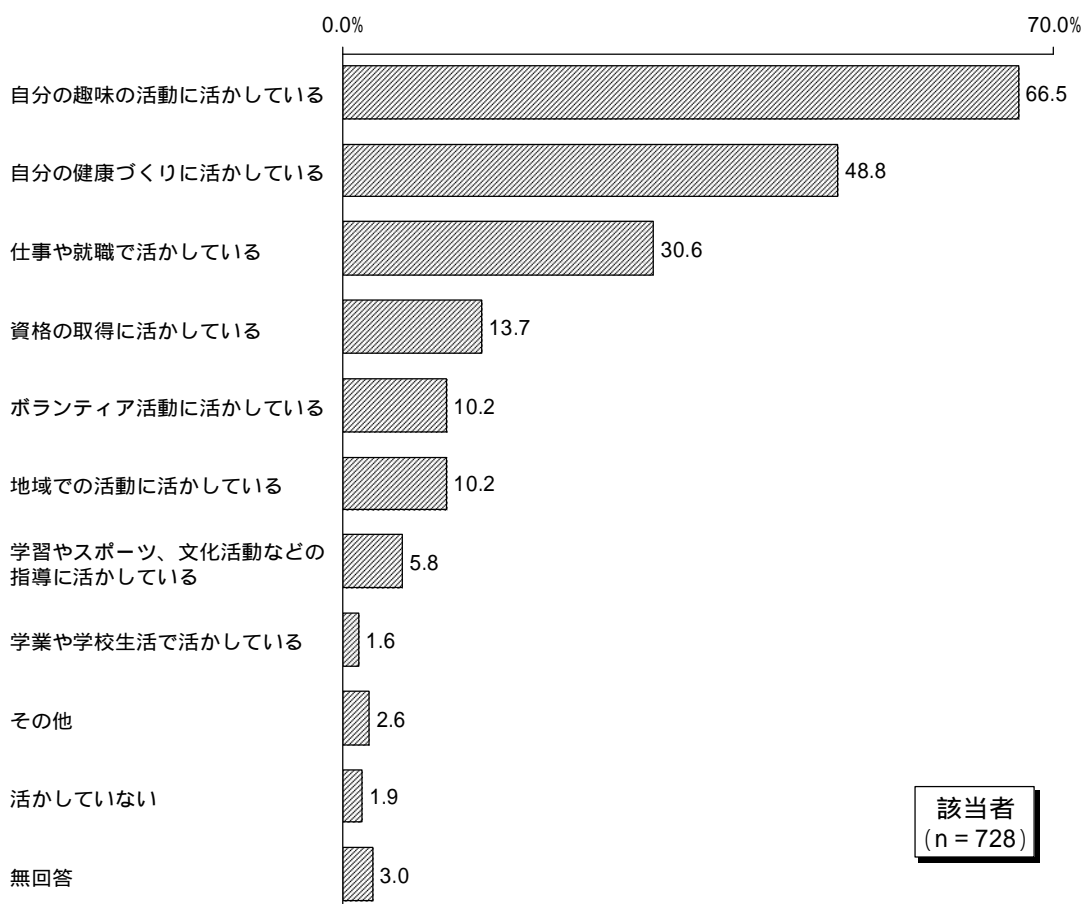
「新潟市以外の新潟県内」や「新潟県外」で活動している人は、女性より男性が多い。

身につけた知識や技能の活用

(『生涯学習活動をおこなっている』と答えた方にお聞きします。)

問 あなたは、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしていますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



約3人に2人が「自分の趣味」に活かしている。

『生涯学習活動をおこなっている』と回答した人(728人)に、生涯学習活動で身につけた知識や技能をどのように活かしているかについて聞いた。

【全体結果の要約】

「自分の趣味の活動に活かしている」人が3分の2程度いる。「自分の健康づくりに活かしている」人も半数弱いる。更に、「仕事や就職で活かしている」人も約3割はいる。上記以外の活用先は1割台以下まで下がる。

【結果考察】

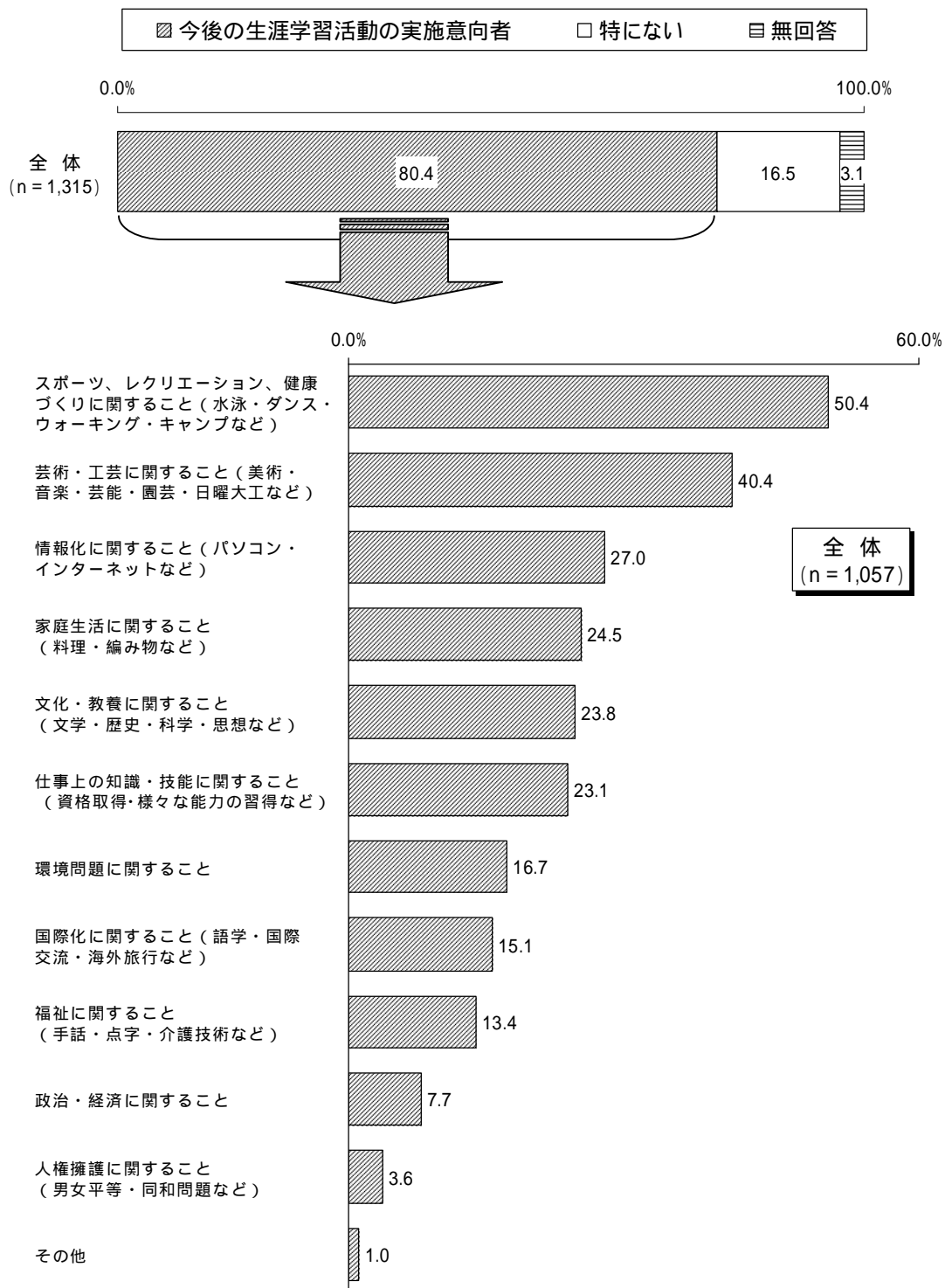
年代別にみると、どの年代でも「自分の趣味の活動に活かしている」割合が最も高くなっている。「自分の健康づくりに活かしている」では、高齢層（60 歳代以上）中堅層（40 歳代・50 歳代）が多く、「仕事や就職で活かしている」、「資格の取得に活かしている」は、若年層（20 歳代・30 歳代）が多い。また、「地域の活動に活かしている」では、団塊の世代（昭和 22 年[1947]から昭和 24[1949]年の 3 年間に生まれた世代）が全体の約 2 倍の 21% という高い割合を示している。

(2) 生涯学習活動に対する今後の意向

実施してみたい生涯学習活動

問 あなたが、これから生涯学習活動としておこなってみたいと思っていることはありますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



「スポーツ、レクリエーション、健康づくり」や「芸術・工芸」への意向が強い。

これからおこなってみたいと思っている生涯学習活動について聞いた。

【全体結果の要約】

約8割の人は、今後「生涯学習活動」をおこなってみたいと回答した。

おこなってみたい人の活動内容として最も多いのは、「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること（水泳・ダンス・ウォーキング・キャンプなど）」で、「芸術・工芸に関すること（美術・音楽・芸能・園芸・日曜大工など）」を望む人がこれに次ぐ。

以下、おこなってみたい人ベースの回答率2割台で、「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」(27%)、「家庭生活に関すること（料理・編み物など）」(25%)、「文化・教養に関すること（文学・歴史・科学・思想など）」(24%)、「仕事上の知識・技能に関すること（資格取得・様々な能力の習得など）」(23%)が続く。

一方で、「環境問題に関すること」(17%)、「国際化に関すること（語学・国際交流・海外旅行など）」(15%)、「福祉に関すること（手話・点字・介護技術など）」(13%)は回答率1割台にとどまっている。更に、「政治・経済に関すること」(8%)、「人権擁護に関すること（男女平等・同和問題など）」(4%)などは少なく、回答率は1割に満たない。

【結果考察】

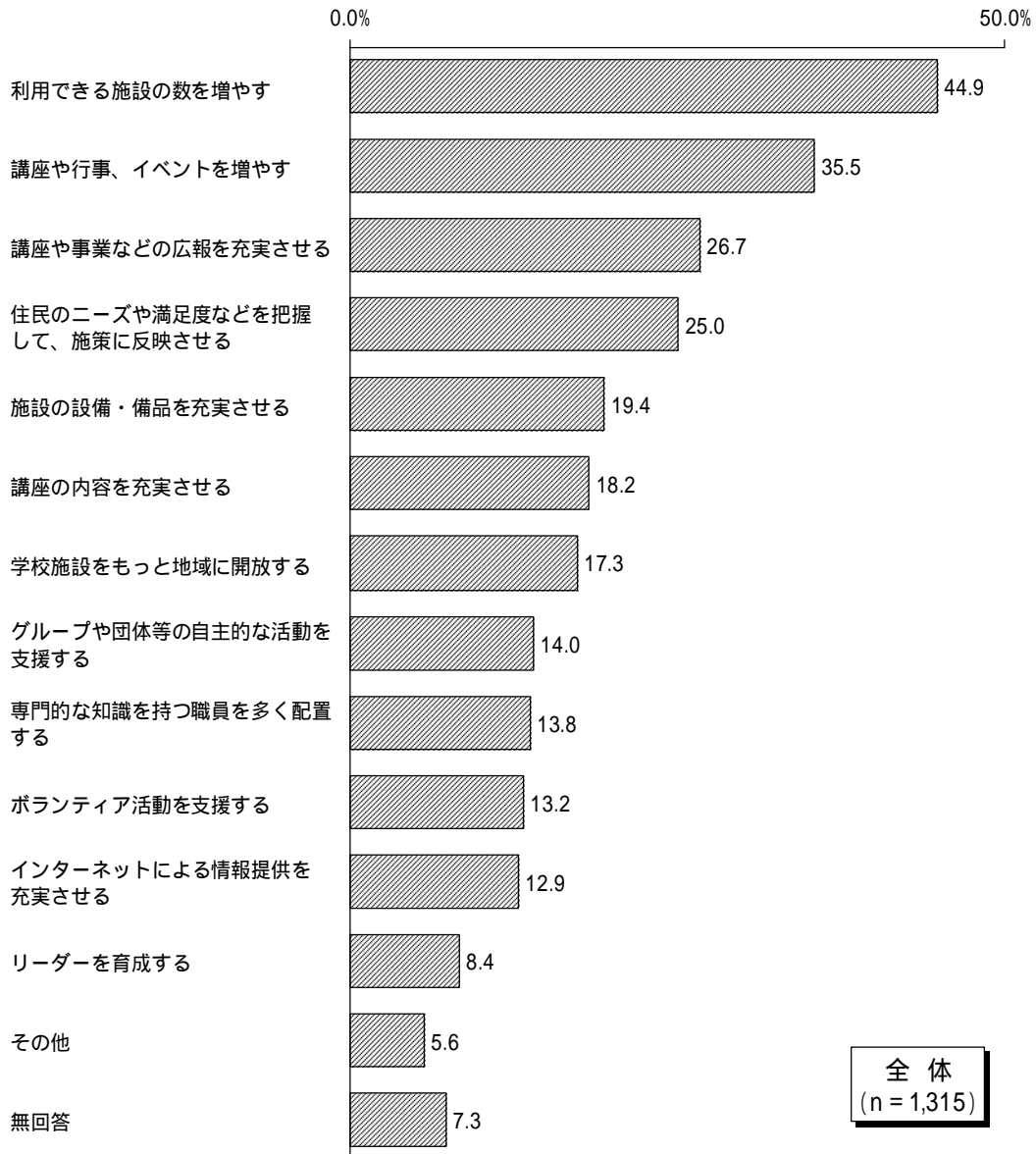
約8割の人が生涯学習活動を実施してみたい意向を持っており、実際におこなっている人の割合55%と比べると、その割合が高くなっている。

実際におこなっている人では「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること」、「芸術・工芸に関すること」、「仕事上の知識・技能に関すること」の順で実施者が多いが、意向では「スポーツ、レクリエーション、健康づくりに関すること」、「芸術・工芸に関すること」に続いて「情報化に関すること（パソコン・インターネットなど）」が3番目に多くなっている。「情報化に関すること」については、若年層（20歳代・30歳代）だけでなく、中堅層（40歳代・50歳代）でも実施したい意向を持っている人が多い。

「特になし」と回答した人では、目標別では「その日その日を自由に過ごす」(24%)、自由時間別では「8時間以上」（平日：34%、休日：21%）を選択した人が、他の項目を選択した人より割合が高くなっている。

施策への要望

問 生涯学習活動をもっと盛んにするために、市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。あてはまる番号を3つ選んで をつけてください。(3A)



「利用施設の増加」と「講座やイベントなどの充実」が二大要望である。

生涯学習活動を盛んにするために、市が力を入れるべきことについて聞いた。

【全体結果の要約】

「利用できる施設の数を増やす」との回答が最も多い。これに「講座や行事、イベントを増やす」が3割台で次ぐ。また、「講座や事業などの広報を充実させる」や「住民のニーズや満足度を把握して、施策に反映させる」との要望も4分の1程度ある。一方で、「リーダーを育成する」との声は1割に満たない。

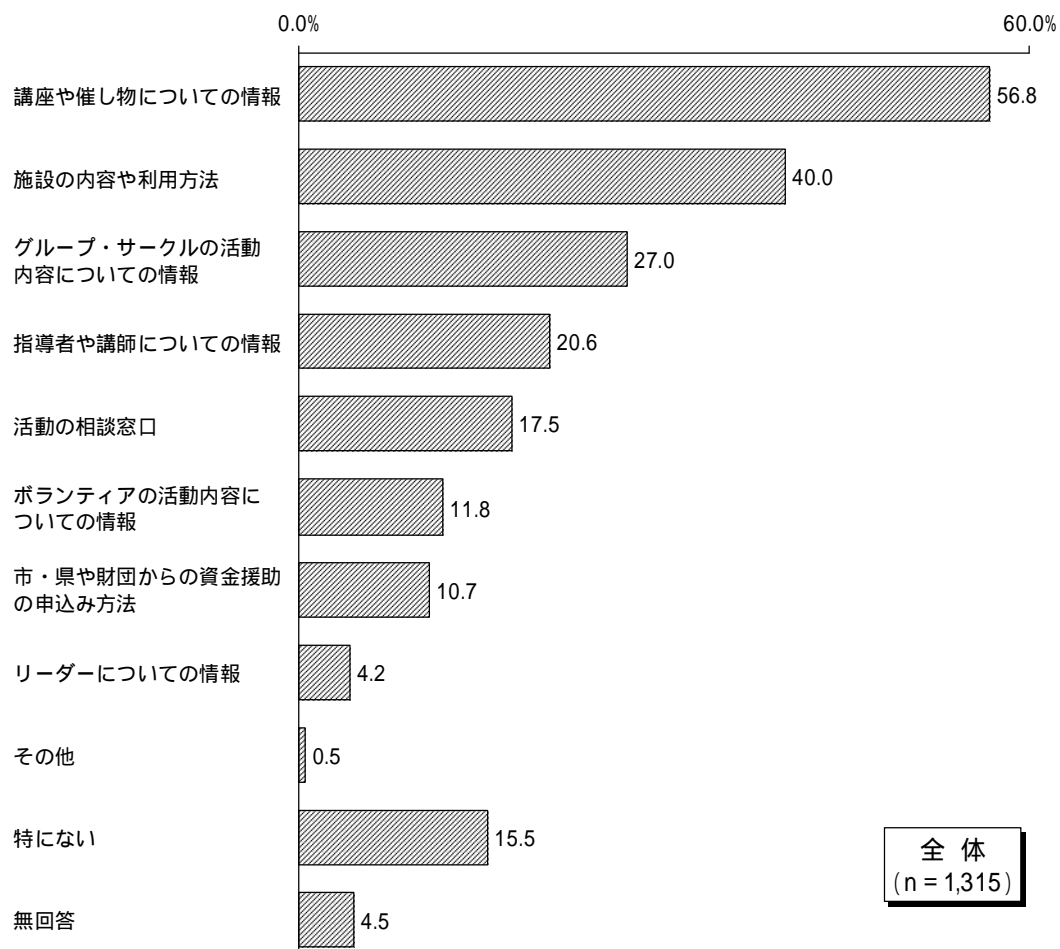
【結果考察】

平日・休日の自由時間の用途別にみると、「福祉・ボランティア活動にとりくむ」を選択した人では、「リーダーを育成する」(平日：17%、休日：16%)において全体の約2倍、「ボランティア活動を支援する」(平日：43%、休日：45%)においては全体の3倍以上の割合を示しており、それぞれ要望が高くなっている。

入手したい情報

問 あなたが生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報はありますか。

あてはまる番号にすべてをつけてください。(MA)



「講座や催し物についての情報」の必要性が高い。

生涯学習活動をおこなう上で、手に入れたい情報について聞いた。

【全体結果の要約】

過半数が「講座や催し物についての情報」の入手を望んでいる。

「施設の内容や利用方法」を望む人も4割いる。

【結果考察】

目標別でみると、「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」を選択した人は、他の目標を持つ人と比べて、「講座や催し物についての情報」(66%)、「施設の内容の利用方法」(47%)の入手を望む割合が高い。「身近な人たちと、なごやかな毎日を送る」を選択した人では、「グループ・サークルの活動内容についての情報」(31%)を手に入れたいとしている。「みんなと力を合わせて、世の中をよくする」を選択した人は、「指導者や講師についての情報」(29%)、「活動の相談窓口」(31%)、「ボランティアの活動内容についての情報」(18%)、「市・県や財団からの資金援助の申込み方法」(18%)、「リーダーについての情報」(8%)を望む傾向がある。

また、「特にない」の項目では、「その日その日を自由に楽しく過ごす」を選んだ人が25%と高い割合になっている。